

## 情報提供・国内連携

国際交流基金は主たる3つの分野での事業のほかに、国内外の国際文化交流についての情報提供や、企業と連携した事業展開、国際交流について大学と共同研究を行っています。ここではそれらの活動について、そして京都支部の活動を報告します。



JFIC ライブラリー

### 情報センター

## 情報の提供・発信に取り組む

情報センターは、国際文化交流に関する情報提供のため、プレスリリースなどを発信する広報・メディアリレーション業務を担うほか、国際文化交流専門誌『をちこち(遠近)』や年次報告書の発行、ウェブサイト、ブログ、メールマガジンなどによる情報発信(P.40参照)、国内連携事業、JFサポーターズクラブの運営、国際交流基金賞や地球市民賞などの顕彰事業(P.8参照)、ライブラリーとイベントスペースで構成される情報発信拠点「JFIC (Japan Foundation Information Center) 通称: ジェイフィック」の運営などを行っています。また、大学生などの見学・訪問の受け入れも担っています。

日本で唯一の国際文化交流専門誌『をちこち(遠近)』(隔月発行)は、2009年度は「多様性を繋ぐドナウ・ヨーロッパ」「世界と出会う歌舞伎」「メコンの暮らしから考える『人間と川』」「国境を越える人々と国家の関係」「海外で活躍している日本人が、ここにもいる」を特集テーマに取り上げ、28号から32号の5号を発行しました。2009年12月に発行された32号をもって『をちこち(遠近)』は休刊となりましたが、過去の記事をアーカイブ化し、ウェブマガジンとして再出発します。

JFサポーターズクラブは、国際交流基金の活動を紹介し、国際文化交流に親しんでいただくための会員向けのイベントを開催しました。2009年度は、モンゴル人歌手のオドバル氏と馬頭琴奏者のイラナ氏によるモンゴル民謡と馬頭琴のトーク・ライブや、韓国研究者の小倉紀蔵氏による日韓の祭りの比較についての講演会など



[左] 雑誌形式での発刊の最終号となった『をちこち(遠近)』第32号  
[右] リニューアルした「AIR\_J」トップページ <http://air-j.info>

を開催しました。また、会員に向けて『JFサポーターズクラブ通信』や「JFサポーターズクラブメルマガ」を発行しました。このJFサポーターズクラブの募集は2009年度をもって終了しました。

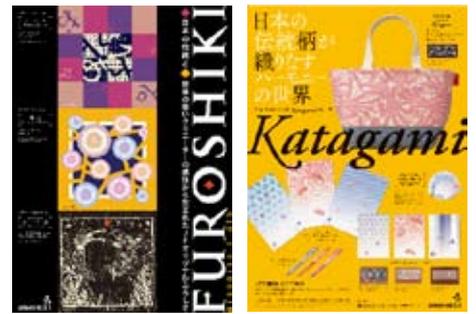
国内連携事業として、日本全国のアーティスト・イン・レジデンスの情報を発信するウェブサイト運営してきましたが、大幅にリニューアルし、新たな検索機能をもったウェブサイト「AIR\_J」として生まれ変わりました。

またJFICライブラリーでは、2010年2月から3月にかけて特別展示「ちりめん本を知っていますか?」を開催しました。「ちりめん本」は明治から昭和初期に発行された書籍で、日本の昔ばなしや文化を外国語で錦絵風の美しい挿絵とともに紹介したもの。ユニークな作りが来訪者を魅了しました。

## 未来を担う若者の育成、 企業との連携

「ふろしき」は日本の伝統文化であり、かつ環境にも配慮した現代性を兼ね備えています。事業開発戦略室では「ふろしき」のもつ可能性に注目し、また未来のデザインを担う若者の「ものづくり」の力を育むために、海外10カ国（韓国、中国、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、メキシコ、ブラジル、ロシア、ベトナム）で、学生によるふろしきデザインコンテストを実施しました。優秀賞に選ばれた3点が、国際交流基金広報グッズ「JFオリジナルふろしき」（全3柄）となりました。さらに、日本の伝統的な型紙デザインをモチーフにしたKatagamiシリーズ（JFオリジナルデリバック、JFオリジナルパーソナルセット）を制作しました。いずれも商品性を兼ね備えた広報グッズとして国内外で喜ばれています。

[左] JFオリジナルふろしきの告知ポスター  
[右] Katagamiシリーズの製品が掲載された告知ポスター  
(JFオリジナルふろしき、KatagamiシリーズともにJFICショップで販売中)



事業開発戦略室では、もうひとつの事業の柱として、海外における日系企業の社会貢献活動との連携を通じた国際文化交流の推進を行っています。2009年度は、中国（第2回目）とベトナムにおいて日系企業の社会貢献活動に関する調査を行うとともに、昨年度調査を行ったタイの調査報告書の英語版を作成しました。

### 国際交流共同研究センター

## セミナー・シンポジウムで 研究成果を発信

国際交流共同研究センター（Joint Research Institute for International Peace and Culture）は、国際交流基金が青山学院大学と連携・協力して運営しており、同大学間島記念館内に事務所が置かれています。

ここでは国際交流についての研究、活動の分析・評価ならびに国際交流技法の開発などの研究を実施し、その研究成果を広く社会に還元することにより、国際交流の発展に寄与することを目的とし、以下のような事柄に取り組んでいます。

- ①国際交流に関する理論および政策の研究
- ②国際交流についての教育
- ③国際交流関連データの収集および整理
- ④研究紀要の発行
- ⑤国内外の国際交流に係る研究を行う各機関との交流

2009年度には、研究プロジェクトとして「平和の為の文化イニシアティブの役割」「地域活性化と国際交流」および「国際文化機関の比較調査」を実施し、それらに関連する調査、研究会・シンポジウムや、連続ランチタイム・セミナーなどを開催しました。研究成果として『平和の為の文化イニシアティブの役割—Good Practices—』、シンポジウム報告書『文化と社会：文化事業の社会的インパクトを考察する』、研究紀要『Peace and Culture』第2巻第1号などを発行しました。

<http://www.jripec-aoyama.jp>

### 京都支部

## 多様な担い手との連携による 日本文化の発信

京都支部は、関西圏のさまざまな国際交流の担い手とのネットワークを生かしつつ、海外からの留学生・研究者など外国人を対象とした日本文化紹介活動を推進しています。

和菓子の手づくり体験や、酒造りの工程見学、錦織物の工房訪問などの体験型プログラムや、能・狂言等の舞台公演、日本映画の上映会など外国語解説付きのプログラムを通して、日本文化に触れる機会を外国の方々へ提供しています。

また、国際交流基金が招へいする日本研究者による講演会、セミナー、懇談会などを通じて、国際交流に関心をもつ市民との対話や交流を進めています。



[上]「国際交流のタペー能と狂言の会」より。茂山千五郎師による「太刀奪」  
[右]金剛永謙師による「通小町」  
(撮影2点とも：高橋章夫)

